

《解答》

1 古文

問1 ゆえ

問2 エ

問3 ア

2 論説文

問1 b

問2 ア

問3 ウ

3 小説

問1 ウ

問2 「例」悟志を外に連れ出し、一緒に波多野の家に謝りに行くため。(27字)

問3 イ

問4 エ

問5 エ

問6 ウ

4 論説文

問1 a あてる      b 努め      c むじゅん      d あいまい

問2 試行

問3 「例」終始一貫していなければならぬ(15字)

問4 ウ

問5 ア

5 作文

(省略)

《解説》

① 古文

- 問1 歴史的仮名遣いのルールを把握する。
- 問2 第一段落や和歌の内容を正確に読み取る。
- 問3 傍線部直後に挙句の思いが述べられている。

② 論説文

- 問1 その他の選択肢の「ない」は動詞に接続している、と考えれば見分けやすいだろう。
- 問2 第三段落の具体例や、第四段落の「伝わっている気持ちにはなれる」などの部分に注目する。
- 問3 傍線部後の「どうしても使わなければならない場合にかぎって口にするべき」などから判断できる。

③ 小説

- 問1 空欄直後の発言に注目し、発言主は誰なのかを読み取る。
- 問2 傍線部後の兄弟のやりとりに注目する。
- 問3 アは「誰からも理解されない孤独な人物」、ウは「意思の弱い人物」、エは「臆病な人物」などがそれぞれ適さない。消去法を徹底するとよいだろう。
- 問4 「すくく反省していたのだから」「嘘をついたことを後悔して」「どうしたらいいかわからなくなっていた」などの部分から判断する。
- 問5 波多野さんの発言における、美容院のエピソードに注目する。
- 問6 本文中、クリームシチューは親子をつなぐ象徴的な食糧物として登場している。

4 論説文

問1 (省略)

問2 四字熟語の知識問題。広範囲の知識が求められる。

問3 「こうした」のような指示語がある場合、直前の内容を指すことが多い。

問4 傍線部を含む段落や最終段落に、小説における人称について詳しく述べられている。

問5 最終段落の内容を正確に読み取る。

5 作文

(省略)